令和6年度 第2回定住自立圏共生ビジョン懇談会議事概要

【日 時】 令和7年2月7日（金） 14時00分から14時45分まで

【場 所】 苫小牧市役所 5階第2応接室

【参加者】 ●定住自立圏共生ビジョン懇談会委員（10名）

笠原座長、内山委員、村田（奈）委員、村田（貴）委員、横澤委員、高本委員
菊地委員、野宮委員、小坂委員、塚原委員

●事務局

苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町

議 事 内 容

(1) 開会

(2) 議事

①定住自立圏共生ビジョン（案）について

【事務局より説明】

それでは、定住自立圏共生ビジョン（案）について説明させていただきます。

まずは、協定の締結についてです。資料の2Pをご覧ください。

前回の懇談会の時点では、「今後締結予定」としていた、「下水汚泥・し尿処理の広域化・共同化」について、厚真町、安平町、むかわ町の3町の議会において議決が完了したため、令和7年1月1日付で、協定を締結しました。

内容としましては、現在苫小牧市においては、下水汚泥・し尿処理を西町下水処理センターで、厚真町、安平町、むかわ町は、むかわ町にある日胆衛生センターにおいて、し尿処理を行っておりますが、それぞれの施設の老朽化に伴い、単独での施設更新よりも広域による施設更新、共同化のほうが費用対効果が高いことから、広域化を行うものです。

なお、白老町は単独実施のため、本協定には入っておりません。

3ページをご覧ください。協定の変更を反映した全体像です。右上の環境分野にぶらさがるかたちで追加いたします。

次に、5ページをご覧ください。素案に対する意見についてです。

下水汚泥の協定変更を盛り込んだ素案に対し、各市町においてパブリックコメントを実施しましたが、意見はありませんでした。

次に、前回の懇談会での主な意見と、ビジョンに反映させた内容について説明いたします。

まずは医療介護の情報連携強化やオンライン診療の活用等、医療分野におけるデジタル化を推進できないかというご意見がございました。

こちらにつきましては、資料2として配布しているビジョン（案）12Pにおいて、「地域医療連携システム整備事業」から「地域医療情報連携ネットワーク事業」に変更するという形で反映しています。

具体的な事業の変更点については後程ご説明いたします。

次に、教育分野においてデジタルを活用した学習機会の創出をできないかという意見がございました。こちらについては、19Pの図書館の相互利用について、デジタル図書の要素を盛り込む形で記載しました。

次に、東胆振ブランドのさらなるPRが必要で、ターゲットを絞った情報発信をできないか。という意見がございました。

こちらについては、KPIの指標を「地域ブランドの合同PR回数」から「東胆振ブランド創造協議会SNSフォロワー」に変更し、SNSによるターゲットを絞った情報発信を強化するかたちで反映しています。

最後に、ビジョン全体を通してKPIの整合性をとれるとなお良いとの意見をいただきました。

こちらについては、全事業改めてKPIの指標や目標値を見直し、より実効性の高いものへと見直しを行っております。

次に、各事業についてご説明いたします。なお、事業費や予算については予算編成中でございますので、完成版報告時に記載しものを報告いたします。

7Pをご覧ください。医療情報のネットワーク化です。

こちらは実施する事業を「地域医療連携システム整備事業」から「地域医療情報連携ネットワーク事業」に変更しております。

現在実施している事業では、システムを導入している医療機関の間において、診療情報を共有できるというもので、導入している医療機関の増加を目標値として設定しておりましたが、令和2年から昨年度まで、登録医療機関が減少している状態でした。

現在のシステムでは登録医療機関が減少しているという現状や、今後、医療情報のみならず介護の情報を共有することが重要になってくるという現状を踏まえ、苫小牧市において、新たに医療DX構想を策定し、クラウドの活用など既存のシステムとは異なる地域医療情報連携ネットワーク事業を展開していく予定です。

こちらを、苫小牧市内のみならず、4町にも広げていき、医療現場、介護現場における情報連携の強化を図ってまいります。

KPIは指標が登録医療機関数で、基準値22か所に対し、目標値は40か所としています。

次に、広域救急医療体制の充実及び病診連携についてです。

こちらは、夜間・土曜・休日に対応可能な二次救急の輪番制医療機関数2医療機関の維持を目標値としています。

次に、8Pをご覧ください。高齢者等の見守りSOSネットワークについてです。

こちらはKPIを見直しました。元々は「事業の周知回数」という指標でしたが、ネットワークへの登録機関数という指標に変更しております。この登録機関とは、所在不明となった高齢者が発生した際に、その情報を発信する登録機関となっており、より多くの期間に登録していただくことが、事案発生時のネットワークの強化につながることであります。

基準値は1,466件に対して目標値が1,580件としています。

次に、障がい者等の地域生活支援についてです。こちらは、基準値2,216件に対し、目標値2,700件としています。

次に、9Pをご覧ください。在宅医療・介護連携推進事業についてです。

こちらは、設置している相談窓口5件を維持する目標としています。

次に、成年後見制度の利用支援体制の充実です。

こちらは、今回の期間において目標値を達成しており、基準値は238件、次期ビジョンにおいては、250件を目標としております。

次に、10Pをご覧ください。生涯学習機会の充実です。

指標は生涯学習関連講座開設数で、基準値674講座に対し、目標値765講座としています。

次に、図書館相互利用の促進です。

こちらは、委員からの意見を踏まえ、事業概要に「デジタル図書」の要素を盛り込んでおり、指標は4町在住者への延べ貸出人数、基準値2,348人に対し、目標値は2,410人としています。

次に、11Pをご覧ください。地域ブランドの推進についてです。

こちらは、今までは指標が「合同PR回数」でしたが、委員からの意見を踏まえ、「東胆振ブランド創造協議会SNSフォロワー数」へ変更しております。基準値は5,500人に対し、目標値は2万人としております。

次に、鳥獣害防止事業の推進です。指標は同じく情報交換回数で、基準値3回に対し、目標値5回としております。

次に12Pをご覧ください。防災体制の充実です。こちらは指標を、自治体主催の防災訓練、防災イベント、防災会議の開催回数としており、基準値12回/年ですが、目標値は累計30回となっております。

次に、新たに追加した取組となりますが、消防体制の強化です。指標は消防指令業務の共同運用となっており、現状構築中のため空欄ですが、目標は共同運用体制の維持としております。

次に13Pをご覧ください。循環型社会の構築です。

指標は家庭ごみの排出量で、基準値41,211トン、目標値38,650トンとなっています。

次に、先日締結した協定に基づく新たな取組ですが、下水汚泥・し尿処理の広域化・共同化です。

現在、共同運用の開始に向けて、各町において協議を重ねている最中でございますので、指標は圏域内会議開催数、基準値は年2回、目標値は累計10回としています。

次に、14Pをご覧ください。地域公共交通の維持確保と利用促進です。

こちらは、指標、地域間幹線系統数5系統の維持を目標値としております。

次に、圏域内における交通ネットワークの形成です。苫小牧地方総合開発期成会を通じた要望活動年3回の維持を目標値としております。

次に15Pをご覧ください。

地産地消の拡大です。こちらは指標、東胆振物産祭等におけるイベントの売上金額としており、基準値が743万円、目標値が860万円としております。

次に、移住・交流促進です。こちらは情報発信回数、基準値25回に対し、目標値30回となっております。

次に16Pをご覧ください。広報連携による情報提供です。

指標は情報発信回数で、基準値30回に対し、目標値35回です。

次に地域情報化の推進です。指標が共同する業務システム数となっており、基準値33ですが、国が進めるガバメントクラウドへの移行が両自治体において進められており、来年度中に本クラウドの使用はなくなることから、目標値は空欄としています。

次に17Pをご覧ください。最後に、職員の合同研修等の実施です。こちらは、もともと研修の回数としていましたが、指標を見直し参加人数とし、基準値124人/年に対し、目標値200人/年となっています。

簡単ではございますが、事務局からの説明は以上です。

②意見交換

○座長

定住自立圏共生ビジョン案について委員の皆様からご意見をいただきたい。●●委員。

○委員

内容というよりも、今回の素案に対するパブリックコメントの意見提出人数が0人という点について。この定住自立圏共生ビジョンというものの自体の周知の部分が大きいのと考えており、広報連携による情報提供という項目があるように、圏域内に向けて「定住自立圏に基づいてこういう事業が行われている」というところも、今後広報していければよい。

もう1点。教育の部分で、デジタルの図書サービスについて話あったが、先日国会図書館で複写サービスについて、今までは郵送対応のみだったが、PDFデータとしてもらえるサービスも始まった。このように国でやっているデジタル化を紹介するじゃないが、よいところは一緒にPRできればよい。

○座長

●●委員。

○委員

防災についての意見になるが、防災士の資格を最近取得した。個人で取得すると6万5,000円程費用がかかってしまうが、一番よかったのは防災に対する意識が大きく変わった。

自主的に防災の訓練や色々な人の防災意識を高めるような活動をしていこうと思っているが、自治体で防災士の研修などを開催していただけると、安い金額で市民の方たちが、勉強できるので、補助があると勉強できる機会が得られると思った。

○座長

●●委員。

○委員

全市町で行う合同研修の内容は、どのような内容なのか。また、このような会議に参加させてもらい、すごく真剣に苦小牧周辺のことを考えられる時間をもらえたことはとてもありがたいなと思い、ちゃんと苦小牧人になれたという気分になった。

○事務局

合同で開催する研修は、イクボス研修、接遇研修、新採用職員研修、DXに関する研修などがある。苦小牧市で開催するものだが、4町にも案内の上参加していただく。

○座長

●●委員。

○委員

私の分野は、地産地消なので、東胆振ブランド創造協議会のSNSのフォロワー数が指標になっているが、それだけでなく、例えば安平町やウトナイ湖などに周辺の市町の特産品を置いているので、そういうところもあるんだということも、PRしていただければ、フォロワーの増加にもつながる。

○座長

●●委員。

○委員

私からは交通の面でお話させていただく。他の行政区域を跨いで連携し、足の確保を行うことが課題だと思う。バスとしても人手不足の中なんとかやっているが、やはり交通網を維持していかないといけない。交通以外では、やはり苫小牧市以外の参加している自治体同士の連携が必要。苫小牧は大きな町なので、そこに頼ってしまうのはわかるが、小さいまち同士、手を繋いで物事に着手するが大切。

○座長

交通面については、医療側としても重要なインフラになる。次に●●委員。

○委員

私は13ページの環境の部分について。K P Iを見直していただいたが何点か気になったところがある。まず循環型社会、事業概要について、太陽光などの再生可能エネルギーと書いてあるが、などには太陽光以外何が含まれてるのか。また、再生可能エネルギーと書いてあるが、これが一体何を指すのかよくわからない。

太陽光と書いてあるので、おそらく電力のことなのかなと思いつつも、熱エネルギー、光の機能の部分もそうなので、このエネルギーが何を指しているのかということも具体的にあれば理解してみたい。あとは、非常に難しいところだがこのK P Iとそれぞれの事業の整合性はやはり気になっている。例えば循環型社会のところと言うと、効果として、再生可能なエネルギーを導入、省エネを進めることで、圏域における温室効果ガスの削減が図られるという効果を目指しているというゴールであったときに、K P Iがそれを測れるものなのか。

K P I設定は難しいし、時間もかかるが、やはり自分たち圏域自治体が、目指したいゴールの進捗度を測れるものじゃないとK P Iとしては機能しないと思っている。この温室効果ガスの削減が図られるK P Iは何かできるのかなと思っている。

あとは新しく加わった下水汚泥だが、福岡の方は、施設、整備費の抑制、管理運営の効率化というのが、目指したい効果として上がったときに、この会議の開催が果たしてこれを測る指標になりうるのかというのは非常に難しい。設定は難しいと思うが、進捗度合いがしっかりわかるK P Iにするためにはこの整合性をしっかりできればよいと思っている。

○座長

事務局。この太陽光などの部分と、K P Iの整合性について。

○事務局

太陽光が、大きな注目を浴びてるところであり、風力などもその1つ。

K P Iの設定について。まず循環型社会構築に対して、家庭ゴミの排出量をK P Iにするということについて、循環型社会という大きな目標に対する評価指標としては、整合性が図れてないという趣旨の、ご意見かと思われる。

この循環型社会という言葉そのままだと見ると、リサイクルなどが主に挙げられる。昨年8月に国の方で循環型社会形成推進基本計画というものも策定している。その中で、これまで循環と言うと資源循環がメインであり、国の方では3Rの推進を働きかけていた。近年は、国際的にも環境問題に対して気候変動、生物多様性、そして環境汚染の防止等を同時に取り組む必要があるという方向性が示されている。その趣旨としては、資源の循環だけでなく、例えば、ごみを減らすということも考えた時も重要。

その点で言うと、作る側でのプラスチックの再生利用という入り口側、そして出口側、例えば市民の古着の再生利用など。このように、入口出口で循環というものを、指標としてとらえるべきなのではないかというお話とともに、当然、ごみの排出量の抑制、最終処分量の抑制、という指標も示されている。

ではこの圏域でのKPIとしてどのように管理するか。という視点でお話をさせていただくと、入口側の指標を設けるというのは難しい。また、苫小牧市、厚真町、安平町は、協定を結んでおりすべて苫小牧市でごみを処理しているが、白老町は登別で処理している。

むかわ町は平取町、日高町と、平取町外2町衛生施設組合というものを設立し、平取町で処理している。

そうすると、KPIとして確実に測定できるものがゴミの量しかない。今現状正確に計量し、わかりやすい指標でいくと、ごみの循環型社会の構築にはゴミの排出量が良いと思っている。

また、下水汚泥・し尿処理の広域化共同化については処分地含めて検討するためのスタートラインに立ったところであり、現状設定できるKPIはこれが精一杯かと思う。

○委員長

●●委員。

○委員

地域ブランドの推進について。東胆振地域のインバウンド含む、観光入り込み客数や、交流人口を増加させるには、その地域における自然や歴史、文化、食、観光等のいわゆる、地域資源を活用して、地域の向上、PR活動や情報発信等の活動が重要。その中で、今回KPIを地域ブランドの合同PR回数から、東胆振プラント構造協議会のフォロワー数に変更したことは、SNSの発信を強化すること、いわゆるデジタル技術の活用に向けた取組を開始していると思うので、大変賛成。現状値の5,500人とは何の数字か。参考までにご教示いただければ。

○事務局

東胆振ブランド創造協議会において各種SNSを実施しているが、Xのフォロワーの数字を指標にしている。

○座長

●●委員。

○委員

この定住自立圏共生ビジョンが始まって、結構な年数が経っているが、市民、町民になかなか伝わっていない部分があると思っているので、各市町で広報紙等において、こういう事業やってる、それぞれ繋がってるということを伝えていただければ。

○座長

●●委員。

○委員

福祉分野について。昨今の技術上情報技術の発達の流れとして、デジタル化というのは、避けては通れない。資料にもあるように、東胆振圏域が目指す将来像として、デジタル技術の活用は至極当然のことと思う。高齢者等の見守り、SOSネットワーク、障害者等の地域生活支援、在宅医療介護連携推進、成年後見制度の支援の充実等と、デジタル化による安全安心な生活環境の向上が求められる。ただ、残念なことに、消防指令業務の広域化、それからむかわ安平東下水汚泥の処理の広域化のように、目に見える形にな

っていないというのが現実で、少し残念に思っている。

○座長

最後に私から医療の分野について。地域医療情報連携ネットワークのデジタル化は、高齢化社会を迎えて医療ニーズの高まりと、開業医の高齢化というのも、地域では課題となっている。目指すところを、1地域1患者1カルテというような形で進めていければよいと考えている。

(3) その他

(4) 閉会